

2 研究の実際

ウ 小学校自閉症・情緒障害特別支援学級(3年)の取組

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小学校3年生の児童に対して、自閉症・情緒障害特別支援学級担任が、感覚過敏等の対象児童の実態を踏まえた合理的配慮を提供した事例である。

対象児童は、国語、算数、理科、社会の時間は特別支援学級で学習しているが、それ以外の教科等は交流学級で学習している。対象児童は学習意欲が高く、学習活動に積極的に取り組む姿が見られる。しかし、感覚過敏があることや自分の体を支える力が弱いこと、活動の切り替えが難しいことがあるため、作業に時間が掛かる。また、多くの活動を求められると注意の持続が難しい様子が見られる。そこで、安心して学校生活を送ることができるように、学習面、生活面、行事等において、支援体制や施設設備を整えたり、主体的に学習し理解することができるように教材等を工夫したりした。

P(調整・決定)シート

1 意思の表明

本人	・国語や算数の学習が分かるようになりたい。
保護者	・感覚過敏（音・臭い・食感・光）やこだわりへの配慮をしてほしい。 ・トイレの付添と水分補給の声掛けをしてほしい。 ・自分で学校生活の活動（準備・登下校・給食）ができるような支援をしてほしい。 ・交流学級での他の子との触れ合う活動を設けてほしい。
引継ぎ等	・前年度まで、感覚過敏やこだわり（音・臭い・食感・光）への配慮として、安心して過ごすことができるための場所の確保や活動内容の調整を行ったことで学校生活に慣れてきた。また、交流学級での係活動を、対象児童が好んで取り組む活動内容にしたことで、他の児童と触れ合う姿も見られた。学習面では、課題量を調整したことで、「読む」「書く」「計算する」ことへの学習意欲が持続し、当該学年の学習に取り組むことができた。 ・課題としては、学習面では、対象児童の学習意欲を持続できるように、書くことへの抵抗を減らす支援や課題量を調整する等の支援を継続して行っていく必要がある。また、トイレに付き添うことや学校での生活習慣づくりは、前年度同様に行っていく必要がある。

2 調整

実態把握

学習面	・鉛筆を持つ力が弱く、筆圧が弱いので、書くことが苦手である。 ・見て学ぶことより聞いて学ぶことが得意である。 ・活動の切り替えに困難さが見られるため、作業に時間が掛かる。 ・自分でできることと難しいことを特別支援学級担任に伝えることができる。 ・学年相応の学習内容はおおむね理解できている。特に算数が得意である。
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流を好んでいる。 ・大きな音（ピストル・太鼓・放送）や叱責の音が苦手である。 ・周りの様子を見ながら行動するため、動作がゆっくりになるが、終了時間を示すと活動を時間内にやり遂げることができる。 ・体を支える力が弱いので、トイレに行くときには配慮が必要である。
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・友達とコミュニケーションを図りたいという気持ちが強い。
その他 (生育歴・ 検査等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自閉スペクトラム症の診断を受けている。 ・WISC-IIIでは、境界の域にある。

検討

【時期】 4月当初 春季休業中の職員会議の後

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内容】 対象児童や保護者の願い、個別の教育支援計画等を基に検討した。

対象児童は、感覚過敏があることや自分の体を支える力が弱いこと、活動の切り替えが難しいこと等があり、作業に時間が掛かる。活動の量が多くなると学習意欲が続かないこともある。

そこで、対象児童が活動内容や方法を正しく理解し、活動への取り組み方のイメージを膨らませて、主体的に学習活動に取り組むことができるように以下のような支援を考えた。

- ①対象児童が家庭学習や授業での書く活動において、量を調節したり時間を確保したりする。
- ②活動の流れや方法が理解できるような視覚支援や声掛けをする。
- ③集団での指示の後に、対象児童が理解しているかどうか確かめ、理解していないときは個別に伝える。
- ④体育大会で、音に関する配慮をしながら、自分でできることと支援を受けることとを見極め、支援方法を調整する。

【準備した資料】

- ・前年度までの個別の教育支援計画及び個別の指導計画

合意形成

【時期】 4月当初 学校で保護者と個人面談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任、交流学級担任、

【内容】 検討した①～④の支援内容を保護者に提案した。上記の合理的配慮を提供し、夏季休業中に評価、見直しをする。

また、各行事に取り組む前に、対象児童や保護者と参加の仕方について話し合うようにする。

3 決定

長期目標

- ・国語、算数の基礎的な学習内容を理解する。
- ・一日の学校生活の流れを理解し、自分で行動する。
- ・体育大会や集会等に参加し、できる活動を選択して取り組む。

<p>①教育内容・教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動量や課題量への配慮と活動内容の精選をする。 ・手順を視覚化したりモデルを提示したりする。 ・電子黒板や学習用PCを活用する。 ・毎日の生活を振り返り、達成感を味わわせる。 ・必要に応じて対象児童のトイレに付きそう。 	<p>②支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解の場を設ける。 ・巡回相談で助言を受ける。 	<p>③施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手すりのあるトイレを整備する。 ・学習用PCを用意する。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

※決定した内容は、個別の教育支援計画及び個別の指導計画、合理的配慮シートに明記します。

* <合理的配慮：3観点11項目> *該当する項目に○を付けて下さい。

<p>①-1 教育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> () 学習上又は生活上の困難を改善・克服 () 学習内容の変更・調整 <p>①-2 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> () 情報・コミュニケーション及び教材の配慮 () 学習機会や体験の確保 () 心理面・健康面の配慮 	<p>② 支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> () 専門性のある指導体制の整備 () 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発 () 災害時等の支援体制の整備 <p>③ 施設・設備</p> <ul style="list-style-type: none"> () 校内環境のバリアフリー化 () 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備 () 災害時等への対応に必要な施設・設備
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次回の検討予定日（7月末）

D(提供)-1シート

長期目標

- ・国語、算数の基礎的な学習内容を理解する。
- ・一日の学校生活の流れを理解し、自分で行動する。
- ・体育大会や集会等に参加し、できる活動を選択して取り組む。

決定した合理的配慮

- ・活動量や課題量への配慮と活動内容の精選をする。
- ・手順を視覚化したりモデルを提示したりする。
- ・電子黒板や学習用PCを活用する。
- ・毎日の生活を振り返り、達成感を味わわせる。
- ・必要に応じて対象児童のトイレに付き添う。
- ・全職員の共通理解の場を設ける。
- ・巡回相談で助言を受ける。
- ・手すりのあるトイレを使用する。
- ・学習用PCを用意する。

実際の指導場面における合理的配慮の提供について

①教育内容・方法

場面	児童の目標	手立て
学習面	・3年生の漢字の読み書きができる。	・新出漢字について、学習用PCを用いて筆順や読みを分かりやすく提示する。 ・家庭学習やドリル練習の量を少なくする。 ・作業が進まないときには、そばで画数を数える。
	・計算が正しくできる。	・図や具体物、学習用PCを用いて視覚的な理解を促す。 ・家庭学習やドリル練習の量を少なくする。
	・調べたことや分かったことを、ノートなどに表すことができる。	・自分の考えをまとめやすいワークシートを用意する。 ・写真などの視覚的な情報を用意する。 ・書き表し方のモデルや言葉の選択肢を提示する。
	・各教科の学習内容を理解する。	・学習PCを活用し、内容の理解を補う。

生活面 (朝の時間)	<ul style="list-style-type: none"> 一日の学習の流れを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する教科と場所や準備などを示したスケジュールを用意し、朝の時間に一緒に確認させる。
(帰りの時間)	<ul style="list-style-type: none"> 活動の準備を自分でする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己チェックができるような手順表を用意し、対象児童にシールを貼らせる。
(昼休み)	<ul style="list-style-type: none"> トイレや手洗いや水分補給などの習慣を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童が自分から行動できるように、「トイレカード」や「水筒カード」を用意し、昼休みに自分から行動することを促す。 手すりのあるトイレへ、担任や支援員が付き添う。
行事等 (体育大会)	<ul style="list-style-type: none"> 自分ができる競技に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ピストルを笛に替えて合図する。 当日、保護者と待機できる場所を確保する。 体力に合わせて練習時間を短く区切り、練習をする機会を多くとる。 当日のプログラムを基に、「がんばりカード」を作成し、シールを貼らせるようにする。 ダンスの練習では、鏡を使って体の動きが確認できるようにする。 音への感覚過敏があるため、応援への参加を見合わせる。

②支援体制

項目	時期	内容
職員研修	5月	<ul style="list-style-type: none"> 対象児童の支援体制を作るために、個別の教育支援計画及び個別の教育支援計画等の資料を基に、対象児童の特性や支援方法について、全体で共通理解する。
外部との連携	6月	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談を活用し、特別支援学校の巡回相談員から、対象児童の様子と実際に行っている支援について助言をもらう。
職員研修	8月	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会に向けた共通理解をするために、個別の教育支援計画及び個別の教育支援計画等の資料を基に学年会及び全体に共通理解を図る。

③施設・設備

項目	時期	内容
トイレの整備	4月	<ul style="list-style-type: none"> 学年のトイレに手すりを設置する。
学習用PCの用意	4月	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級に学習用PCを用意する。

D(提供)-2シート

合理的配慮の実際

1 合理的配慮の提供場面

算数科「余りのあるわり算をしよう」

2 本時の目標

〇わり算の余りを適切に処理することができる。

3 合理的配慮を取り入れた本時の授業について

本時では、前時までの学習で身に付けた余りのあるわり算の知識と計算力を基に、余りを適切に処理する場面へと広げていくことをねらいとしている。実生活では、余りをそのままにせず、余りを切り上げて商に1加える場面と余りをそのまま切り捨てる場面が考えられる。前時までは、計算結果をそのまま答えとしており、余りを処理することは本時が初めてである。そこで、なぜ余りを処理する必要があるのか、そして、どのように処理していけばよいのか、問題文の「みんなが座るには」等の言葉に着目させ、イメージを膨らませながら正しく処理できるようにしたい。

本学級に在籍する3年生3名は、算数の学習は、情緒障害学級で個別学習の形態で行っている。個別学習の形態を取ることで、児童が言葉を正しく理解したり、問題場面のイメージを膨らませたりする場面などで、個に応じた支援ができています。また、書くことが苦手な児童もおり、本人のペースで書く作業に取り組むことができています。学習内容は、通常の学級と同じものに取り組んでいる。

対象児童は、計算をする学習に意欲的であり、1学期に学習したわり算の計算の仕方を身に付けている。また、余りのないわり算の文章問題では、自分で読んで立式し答え方の手順に沿って答えを求めている。一方、書く作業がゆっくりで時間が掛かることから、多くの活動を求められると注意の持続が難しいことが見られる。

そこで、意欲的に学習することができるように、問題解決の方法の手順や前時までに学習した内容やポイントを教室に掲示し、授業への見通しをもたせる。また、実際の場面をイメージしやすいような視覚的な支援や声掛け等をしたり、具体的な操作活動をしたりしながら体験的な理解を進めたい。さらに、書く活動においては、書く量に配慮したワークシートを用意したり、作業時間を確保したりして最後まで取り組めるようにしたい。

4 対象児童へ提供する主な合理的配慮




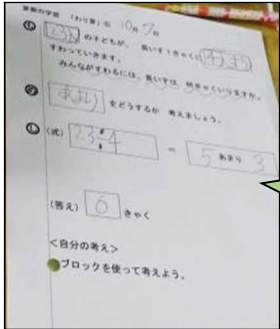
提供する合理的配慮

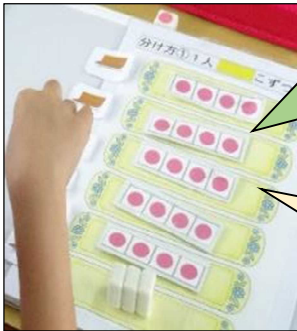


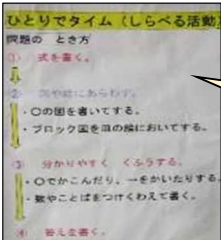
- ・書く活動において、書く量の調節と時間の確保をする。
- ・活動の流れや方法が理解できるような視覚的支援や声掛けをする。

5 授業の実際 (◎ 合理的配慮 ☆対象児童を含めた学級全体への配慮)

担任の所感

対象児童


学習活動	教師の働き掛け	取組の様子
<p>【授業前】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容のポイントを、ホワイトボードに提示した。 ・学習の見通しを持つことができるように、本時の学習の流れを黑板の左隅に掲示した。  <p>◎本時の学習に使うワークシート、数図ブロックなどの準備を担任と一緒に済ませておいた。</p>  <p>◎本時の問題のカードを机の上に置いておいた。</p>	<p>具体物を使う学習は用意を担任と一緒にすることで、本人の活動の見通しやイメージづくりになりました。</p> <p>長椅子の絵があることで、問題場のイメージがつきやすくなり、長椅子の数を求めることへ注意が向いていました。</p>
<p>1 問題を読み、めあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>23人の子どもが、長いす1きやくに4人ずつすわっていきます。みんながすわるには、長いすが何きやくいりますか。</p> </div> <p>・立式をする。 23 ÷ 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の絵を電子黒板に拡大して掲示した。 ・実際に椅子に座る動作をしながら、子供が同じ数ずつ長椅子に座っていく場面であることを確認させた。 ・身近で経験した似た場面を紹介した。  <p>◎分かっている数と何を求めるのかが分かる言葉の部分を意識できる</p> 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>早くイラストの長椅子を並べて考えたいな。</p> </div> <p>大事な数や言葉だけを記入することで、書く抵抗が軽減し、ポイントへの意識化が図れました。</p>


	<p>ように、黒板に提示した穴あきの問題文と同じワークシートを用意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わり算の答えに余りがあることを確認し、「余りをどうするか」を意識できるような発問や言葉掛けをした。 <p>◎めあてのキーワードを書き込むワークシートを用意した。</p>	
	<p>めあて わり算の余りをどうするか考えよう。</p>	
<p>2 解決の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な説明や指示をする時は、注意を喚起してから話をするようにした。 ・問題解決の方法の手順を提示し確認した。 ・数図ブロックを使い操作したり、操作したことを絵や図で表したりする等、自分の方法で答えを出すことを確認した。 	<p>操作しやすいように、1つずつのブロックを4個まとまったブロックカードに作り直しました。</p> <p>4個が繋がったブロックになったから、早く置けるようになった。</p>
<p>3 問題解決に取り組む。</p> <p>23 ÷ 4 = 5あまり3 5 + 1 = 6 答え 6きやく</p>	<p>◎数図ブロックを並べたり、書き込みをしたりしやすいように、長椅子の絵が付いたホワイトボードを用意した。</p>  <p>◎自力解決の操作活動に十分時間を取った。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら称賛の言葉を掛けた。 	<p>時間を確保することで、自分のペースでブロックを操作したり式を書いたりして自力解決を助けることができました。</p> <p>4つずつ並べたら3個余るよ。それもこの長椅子に置いてみよう。</p> <p>この順番ですと計算の答えが分かったよ。</p>


<p>4 まとめをする。</p> <p>5 練習問題をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 早く済んだ児童同士で自分の考えを伝える場を設けた。 電子黒板で、4人ずつの椅子に座れずに、余った子供達も、次の長椅子に座った絵を提示し、「みんながすわった」ことになることを確認した。 余りをそのままにしないことを確認し、余りをどうするかの部分を書き込むワークシートを用意した。 <p>◎言葉の選択肢を提示し、○囲みをしたり数字を書き込んだりするワークシートを用意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題場面のイメージを持ちやすいように、挿絵を入れた問題文を提示した。 問題文のキーワードの言葉を伝えた。 <p>◎練習問題の量を少なくした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 余りの処理が正しくできたことを称賛し、ご褒美シールを貼った。 	<p>一人でタイム（発表活動） 発表のし方 ① 書いた式を読む。 ② 書いた答えを読む。 ③ 考えたわけを、ぜひいする。 自分か書いた式や答えと異なっても、それができたらいいですね。</p> <p>お友達も同じ答えだったよ。</p> <p>書く量を配慮したことで、学習内容を理解することに集中し、学習内容の定着を図ることができました。</p> <p>選択肢を用意することで、自分では、文章が思い浮かばないことも、選択肢があることで答えやすくなりました。</p>
<p>【授業後】</p>	<p>◎自力解決をしたときのホワイトボードを写真に撮ってワークシートに貼り、次時の授業に生かすようにした。</p>	<p>自分が実際にした様子の写真があると、前時の学習が想起しやすくなりました。</p>


D(提供)-3シート

合理的配慮の具体例

場面	行事等	体育大会のダンス練習の仕方
合理的配慮の内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・手順を視覚化したり、モデルを提示したりする。 ・自分が参加する種目を練習する機会を少しずつ確保する。 		
		<p>対象児童は、動きを模倣したり、指示どおりに動いたりすることが難しいことから、まず、ダンスの動きをイメージさせることを心掛けた。</p> <p>そこで、ダンスの動画を電子黒板で提示し、いつでも見ることができるようにした。そして、昼休みや体育の時間等を使って、少しずつ練習する機会を設けた。電子黒板を見ながら、自分ができる動きのときには、自分から動く様子が見られるようになった。また、ダンスの隊形における位置については、学年の職員と相談して対象児童が友達の動きを模倣しやすく、隊形移動しやすい場所にした。練習をして動きが分かったことや隊形移動が分かりやすくなったことで自信が持て、演技に参加することに抵抗がなくなってきた。</p> <p>当日は、隊形に並んで覚えたダンスの動きをし、友達と一緒に隊形移動して最後の退場まで活動できた。</p>
【ダンスの動画を見ながら練習する対象児童】		

場面	行事等	体育大会の練習時における別室での活動
合理的配慮の内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員の共通理解の場を定期的に設ける。 ・応援の練習への参加を見合わせる。 		
		<p>音に過敏で、太鼓や笛の音、大勢の大声に対して情緒不安定になる傾向がある。</p> <p>そこで、1学期の職員会議で対象児童の特性を知らせ、体育大会の応援合戦への参加を見合わせることを、全職員で共通理解した。全校での応援練習が行われているときは、自分の教室でイヤーマフを付け、体育大会のポスターを描いて過ごした。近くで行われている応援の太鼓や大きな声が多少聞こえているが、対象児童は、落ち着いた様子で過ごすことができた。</p>
【別の活動に取り組む対象児童】		

場面	行事等	体育大会への参加の仕方 ①
合理的配慮の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・対象児童が参加できるように、学年の職員と共通理解して支援を考えた。 ・自分が参加する種目について、手順や方法を視覚的に提示する。 		
 <p data-bbox="304 837 655 918">【対象児童が分かりやすいように色を付けたカード】</p>	<p>対象児童が参加する競技には、途中でカード合わせをして、その指示通りに活動をしていく流れがあり、対象児童が参加するには困難があった。</p> <p>そこで、対象児童が安心して活動ができるように、学年の職員と相談して対象児童が好きな色のカードを用意し、対象児童が取るカードを分かるようにした。また、事前にカードの絵やその時にすることを写真で見せたり、一緒にする相手を知らせたりし、学年練習に参加した。そして、対象児童の練習の様子を動画で撮り、練習後にその動画を一緒に見ながら、参加する競技の全体の流れを確認した。</p> <p>対象児童は、自分がすることや全体の流れが分かり、最後まで練習に取り組むことができた。そして、当日も参加することができた。</p>	

場面	行事等	体育大会への参加の仕方 ②
合理的配慮の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・当日のプログラムを基にカードを作成し、参加した種目や見学した種目にシールを貼らせる。 		
 <p data-bbox="276 1912 628 1993">【プログラムに印やシールを貼ったカード】</p>	<p>対象児童が体育大会当日の見通しをもてるように、プログラムに出場種目や参観種目について印を付け、対象児童に提示した。そこには、ピストルを使用しない種目についても知らせ、できるだけ多くの種目に参加や参観ができるように促した。また、当日は保護者に協力をお願いし、参加や参観ができたところにご褒美シールを貼ってもらうようにした。対象児童は、このプログラムを見ながら自分の学年の種目に参加したり、他の学年の種目を参観したりしながら、体育大会に能動的に参加できた。そして、自分の頑張りを確認することができた。</p>	

C(見直し)シート

見直し

検 討

【時 期】 8月

【参加者】 特別支援学級担任、交流学級担任

【内 容】 決定した合理的配慮の成果と課題について、対象児童の学習面や生活面の様子を振り返りながら話し合った。

成果と課題

- 学習面では、学習ソフトを活用したり、活動の量や課題の量を少なくしたりした。対象児童は、学習内容のポイントが分かり、基礎的な学習内容を理解することができた。また、書くことへの負担が軽減し、書く活動に最後まで取り組むことができるようになった。
- 生活面では、朝の時間に1日の学習の流れを確認したことで、見通しを持って活動することができるようになった。
- 感覚過敏があり流れる水の音が苦手であることや、体を支える力が弱いことから、一人でトイレを適切に使用することが難しい様子が見られた。そのため、毎回、手すりのあるトイレに付き添う必要がある。

合理的配慮の変更点

これまでの合理的配慮は今後も継続する。
以下の点については、見直した。
・毎回、手すりのあるトイレに付き添う。

合意形成

【時 期】 8月末 個人懇談

【参加者】 保護者、特別支援学級担任

【内 容】 検討した成果と課題、変更した合理的配慮について提案した。
今後も定期的に評価、見直しを行い、年度末は次年度への引継ぎについて話し合うようにする。

**A(引継ぎ)シート****引継ぎ**

【時 期】 4月 職員会議後

【参加者】 (旧・新)特別支援学級担任、(旧・新)交流学級担任

【方 法】 個別の教育支援計画及び個別の指導計画を基に、下記の引継ぎ内容について話し合いをする予定である。全職員には、職員会議の中で、対象児童についての説明を行い、共通理解を促す予定である。6月には、交流学級担任及び保護者を交えて支援会議(ケース会議)を開く。

【内 容】

- ・活動量や課題量への配慮と活動内容の精選をする。
- ・手順を視覚化したりモデルを提示したりする。
- ・電子黒板や学習用P Cを活用する。
- ・毎日の生活の振り返り活動を行い、達成感を味わわせる。
- ・毎回、対象児童のトイレに付き添う。(担任及び支援員)
- ・全職員の共通理解の場を設ける。
- ・巡回相談で助言を受ける。
- ・手すりのあるトイレを使用する。
- ・学習用P Cを用意する。

成果と課題

成 果

○前年度の引継ぎを基にした合理的配慮の決定

前年度の引継ぎを基に合理的配慮の内容を検討したことで、対象児童の実態とこれまでの支援内容について確認しやすくなり、年度当初の支援の方向性を明確にすることができた。また、合理的配慮の3観点で支援内容を整理したことで、対象児童にとって、優先的に必要であり、実際に提供可能な合理的配慮を決定することができた。さらに、保護者や担任、交流学級担任等、複数で話をしたことで、対象児童にとって必要な支援内容について共通理解ができ、一貫した支援の提供につながった。

○生活や学校行事等での合理的配慮の提供の実践

対象児童は、感覚過敏があることや自分の体を支える力が弱いこと、学習活動の切り替えが難しいことから、日々の学習や排泄、体育大会等の行事において、合理的配慮の提供が必要であった。そこで、対象児童の実態に応じた支援を提供したことで、対象児童は、国語や算数の基礎的な学習内容を理解したり、体育大会に参加したりすることができた。特に、体育大会では前年度までは、他の学年の種目は別室で待機していたが、今年度は、運動場の近くで、他の学年の種目の応援ができるようになった。

課 題

○合理的配慮を提供する上で、保護者及び交流学級担任や他の職員と連携することが大切であると考える。しかし、連携を図るための支援会議を開催する際に、会議の日時や参加者の調整等が難しいと感じた。そのため、普段から保護者や職員間で連絡を取り合ったり、支援会議における検討内容を精選したりするなど、効率的な共通理解の在り方を探っていく必要がある。

○対象児童は、感覚過敏があったり自分の体を支える力が弱かったりすることから、毎回トイレに付き添うという合理的配慮が必要になった。その変更に伴い、毎回トイレに付き添う支援者の確保が課題となった。

平成28年度 個別の教育支援計画

記入者名：〇〇 〇〇 記入日：平成28年5月〇日作成

〇〇小学校 〇〇学級 (3年 〇組)		校長名	〇〇 〇〇	担任名	〇〇 〇〇
ふりがな 氏名	〇〇 〇〇 ()	生年月日	平成 〇年 〇月 〇日		
保護者名	〇〇 〇〇	家族構成	〇 〇 〇 〇		
住 所	〇〇市 〇〇町 〇〇 〇-〇				
現在の生活、将来の生活についての願い					
本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと楽しく過ごしたい。 ・できることを増やしたい。 		保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自分の力で学校生活を送ってほしい。(通学、準備、給食、トイレ) ・友達と交流してほしい。 	
本人の状況 (学習面、集団参加・社会性、対人関係・コミュニケーション他)					
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習準備や帰りの準備などを、本人のペースで活動を進めている。 ・給食では、牛乳を飲まない。食へのこだわりは強い。箸を使ってつまむなどの動作が苦手である。 ・トイレは、体育館のトイレ(手すり有)を使っている。 ・書くスピードがゆっくりで、意に沿わない時は書き直すため、作業に時間が掛かる。 ・本人の中では聞くことが得意である。 ・学年相応の学習内容の理解は大体できている。特に算数が得意である。 ・友達との交流を好んでいる。 ・音に対して過敏である。 				
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題は、母親と一緒に取り組んでいる。 ・絵とピアノの習い事をしている。 ・意思表示はできる。自分の思うようにいかないとかんしゃくを起こすことがある。 ・睡眠時間が短いことがある。 				
地域・関係機関					
支援の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数を中心とした基礎的な内容の理解と技能の定着を図る。 ・一日の学校生活の流れを理解し、自分で行動できるようになる。 ・体育大会や集会等に参加し、自分ができる活動に取り組むことができる。 				
主な支援内容				支援者	
学 校	学級	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、算数を中心とした基礎的な内容の理解と、技能の定着を図る。 ・<u>学校生活の基礎的な生活習慣を身に付ける。</u> ・<u>身辺処理の自立(トイレ)を図る。</u> 			担任 交流学級担任 (支援員)
	校内	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>定期的に全職員への共通理解を図る。</u> ・<u>体育大会に向けた学年会及び全体での共通理解を図る。</u> 			担任 全職員
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣を身に付ける。 ・意思表示の経験を増やす。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。 			保護者	
地域					
関係機関 医療、福祉、 特別支援学校 等	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、病院へ受診予定である。(H〇 K式発達検査実施) ・<u>定期的に巡回相談で助言を受ける。</u> 				
評価及び 引継ぎ事項					

【合理的配慮シート】

〇〇小学校 3年 〇組 氏名 〇〇 〇〇

長期目標
<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の基礎的な学習内容を理解する。 ・一日の学校生活の流れを理解し、自分で行動できるようになる。 ・体育大会や集会等に参加し、自分ができる活動に取り組むことができる。

提供する合理的配慮	評価
・活動量や課題量への配慮と活動内容の精選をする。	継続
・手順を視覚化したりモデルを提示したりする。学習ソフトの活用をする。	継続
・電子黒板や学習用PCを活用する。	継続
・毎日の生活を振り返り、達成感を味わわせる。	継続
・必要に応じて対象児童のトイレに付き添う。 毎回、対象児童のトイレに付き添う。	変更
・全職員の共通理解の場を設ける。	継続
・体育大会に向けた学年会及び全体での共通理解を図る。	継続
・巡回相談で助言を受ける。	継続
・手すりのあるトイレを使用する。	継続
・学習用PCを用意する。	継続

【提供する合理的配慮を決定した日】

H28年 4月 〇日

児童生徒名 〇〇 〇〇

保護者名 〇〇 〇〇

担任名 〇〇 〇〇

学校長名 〇〇 〇〇

次回の検討予定日	H28年	7月	〇日
----------	------	----	----